

ここにある資源で思いをつなぐ 大切なものを守り続けるために

私たちが暮らす「宇山地区」

島根県雲南市の最南部で、広島との県境に位置する宇山は、米作りと豪雪が自慢です。この地で、県内でも少ないご飯ソムリエが自信をもってすすめるお米「うやま米」を生産しています。

26世帯の小さな集落で、人口67人、高齢化率54%と、他地域に劣らず高齢化・担い手不足・人口減少等が著しい集落です。

里山照らし隊の誕生

こんな地域でも誇れるものがあります。豊かな自然・美味しいお米・あたにかい人達。これらを今後も守り続けたい。更には、地域資源を活用した新たな取り組みを進めながら、この地域を生き続けたい。こんな思いが住民から生



里山照らし隊ののぼりと宇山地区

「草刈りの協

可能性を探る宇山ミーティング

まず、その実現に向けて協議を重ねました。そして自治会などで地域の理解を得ながら平成29年、任意団体「里山照らし隊」を立ち上げました。

また、地元住民を中心に地域外からも志あるメンバーが加わった十数名の「宇山ミーティング」を開始。日頃から感じている課題や今後の可能性を毎月話し合いました。キーワードは「農業」。宇山にとって農地を維持することが出来なければ、私たちの思いは達成できない。しかし、もはや高齢化から田んぼの草刈りも十分にできない深刻な課題となっているのです。



宇山ミーティング。半数は地域外スタッフ

しかし、初回の参加は周辺の知り合いや呼びかけた学生など十数人だけ。やはりこんなものかと思

草刈り応援隊の3年

力者を募ろう。」という案が出ました。「草刈りにわざわざ人が来るのか。」「やる意味があるのか？」と、当然の疑問が。しかし、地域外からの最年少メンバーが「大丈夫!!とにかくやってみましょう!!やらなければ何も変わらない!!」と、私たちを強く鼓舞したのです。こうして、「草刈り応援隊」が誕生しました。



草刈りプロによる事前講習もみっちり

里山照らし隊
理事 堀江 智浩



るようになり
ました。「自
分の家の草刈
りもしないく
せに、よその
草刈りか？
と親父に叱ら
れちゃいま
した。」と照
れながらぼや
く若者。「う
ちでは危ない
ので親が草刈
り機を使わせ
ない。」とい
う女性など初
心者も来るよ
うになりました。
作業前には
草刈りのプ
ロによる講習
もしつかり。

それぞれ動機は違っても目的は「里山の一日を楽しみたい」「住民とふれあいたい」なのです。今年では地方紙やテレビでも取り上げられたことで参加者は倍増。SNSの効果もあって、山陽、関西、中京地方などからも駆けつける人も出て、3年目の今年は毎回40名規模の取り組みになりました。

「ストレス解消になった。」「稲作の一部を体験出来て嬉しい。」「宇山に来



草刈り終了「バンザイ」(^o^)/



女性参加者も増えてきた

ることが普通になった。」など、参加者の感想や温かい言葉は私たちの大きな励みであり、何より隊員や家族のモチベーションが上がってきたことに驚いています。

交流人口から相互の関係人口へ

こうした活動を通じて知り合った参加者と私たちは、互いがいつも気になるようになりまし。お祭りなどの地域行事にも来てみたいので、日程を早めに教えてください。」と連絡し合う機会も増えてきました。単なる「交流」ではなく「相互の関係人口」として絆が芽生えつつあるように感じています。

里山照らし隊のこれから

「ここにある資源で里山を照らす」のフレイズが私たちの基本です。実はここでは今、炭を材料に蓄電器を作っています。裏山にふんだんにある竹木で炭を作り、蓄電器にしています。松江高専などの産官学の研究から生まれた技術で、まだ開発の途上ですが、持続可能な自然エネルギーモデルとして



炭蓄電器「TANDEN」



炭蓄電器を装着した照明。スマホ充電も可能。



慰労会での女性陣の手作り地元料理は大人気

各方面から注目されています。草刈り応援隊をはじめ、農林資源を活用した取組みで広がった関係人口が、「力」だけでなく「技術」や「知恵」そして「情報」を宇山にもたらすことになるかと期待しています。全ては、里山を次世代につなぐために。